

現地でビザの延長申請を行いましたか？	
<input type="checkbox"/> 行った <input checked="" type="checkbox"/> 行わなかった (以下1~5には回答不要)	
1.申請先	
2.申請時期	
3.必要書類	
4.具体的な手続き	
5.注意点等	

3. 住居の確保

どのように住居を見つけましたか？	
大学から勧められたwerkで寮の申請を行い、1月ごろにオファーのメールが届いた。	
住居の申し込み手順	
werkのサイトから申請→werkからのオファーメールを受け取る→書類にサインして返信、初月の賃料を送金→大家からのメールを受け取る→賃貸契約書類にサインして返信→契約が完了し、鍵の受け取り日時が知らされる	
渡航前に支払った費用とその内訳	
費用： 42,345 円	内訳： 寮の居住費の最初の一月分
住居のタイプ	
<input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> 寮 (寮の名前： Uni-center)	
<input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他 ()	
部屋の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 <input type="checkbox"/> その他 ()
ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの留学生 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (無し)
設備 (ネット環境、共有スペース、部屋に設置されている家具等)	
机、椅子、ベッド、冷蔵庫、収納ダンスが備え付き。部屋内にネットあり。トイレ・風呂場付き。洗濯は寮内の共同コインランドリーを利用。	
食事	<input checked="" type="checkbox"/> 自炊 <input type="checkbox"/> 食事の提供があった (<input type="checkbox"/> 朝 <input type="checkbox"/> 昼 <input type="checkbox"/> 夜) <input checked="" type="checkbox"/> 外食
大学までの通学手段/通学時間	
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車 <input type="checkbox"/> ترام <input checked="" type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自転車 <input type="checkbox"/> その他 ()	
通学時間合計： 15 分	
住居を選ぶにあたってのアドバイスや申請の際のトラブル等	
私は比較的早くに住居のオファーが届いたため、申請の際に特にトラブルは無かった。入居日及び鍵の受け取り日時については相手方から指定されており、自分から希望は出来なかった (代理の人に受取ってもらうことは可能とのこと)。	

●滞在先の変更について

留学中に引っ越しや滞在先の変更は行いましたか？	
<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ (以下1~10には回答不要)	
1.どのように住居を見つけましたか？	
2.住居の申し込み手順	
3. 費用の合計とその内訳	
費用：	円
内訳：	
4.住居のタイプ	
<input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 寮 (寮の名前：)	
<input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他 ()	
5.部屋の種類	<input type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 <input type="checkbox"/> その他 ()
6.ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの留学生 <input type="checkbox"/> その他 ()

2	コース名/科目名	A European History of Cologne in the 20th Century (1933-2000)
	開講学部	Arts and Humanities
	担当教員名	Müller, Johannes
	時間数 (1週間あたり)	2
	授業内容	歴史学は、鳥瞰図の世界史やパノラマのヨーロッパ史から巨視的な国史、微視的な地域史まで対象に焦点を当てる傾向がある。このコースでは、第二次世界大戦から冷戦時代を経てとらえどころのない「歴史の終わり」までの厄介なヨーロッパの歴史の中で、国家社会主義とアドルフ・ヒトラーの台頭から千年紀の終わりまでのケルンの歴史の軌跡を見ていく。数千年目の転換期に、私たちは、地域的な出来事や経験がヨーロッパ全体、さらには世界的な歴史的過程をどのように反映しているのか、それらが包括的な国境を越えた傾向とどのように相互に関係しているのか、そしてそれらがヨーロッパの他の都市中心部における現代の発展と比較できるのか、あるいはどのように対照的なのかを学ぶ。そうすることで、ドイツの「極西」ワイマールにあるプロイセンの中心地から、統一ドイツの連邦共和国第4の都市およびラインラントの大都市に至るケルンの歴史を再現する。しかし同時に、私たちはこの発展の中にあるヨーロッパの遺産を特定し、ケルンにおけるヨーロッパのアイデンティティの特定の「ライン」の変種を概説する。このコースで私たちが議論しようとしているのは、ヨーロッパのアイデンティティは、歴史的観点から見たあらゆるアイデンティティと同様に多様であり、地方、地域、国家、国境を越えた経験の結果であるということ。しかし、それは共通の歴史的参照、共通の発展と傾向の中核に関連しており、その特定の地域の歴史的組み合わせの一つに過ぎない。ヨーロッパのアイデンティティの中には、他より鋭いものもあれば、大雑把なものもある。20世紀、あるいはエリック・ホブズボームの言葉を借りれば「極限の時代」におけるケルンのヨーロッパ的アイデンティティを何が定義しているのか見ていこう。
	プレゼンテーション、レポート、筆記の最終試験	
	感想・自己評価等	近代～現代のケルンの歴史について学んだ。ドイツとしての歴史の概要は以前から知っていたが、ケルンと一都市の歴史については知識がほぼ無かったため、第二次世界大戦の空爆で大きな被害を受けたことなども初めて知った。課外授業でナチスの収容所を見学する機会があり、狭く陰鬱な雰囲気や収容生活や迫害の生々しさを感じた。短い演説分や新聞記事の内容を読んでグループで話し合う時に、あまり発言できなかった。授業内のプレゼンテーションでは民主主義とファシズムについてを他の受講者と協力して発表した。

3	コース名/科目名	Deutsche Sprache und Literatur im Unterricht (nur für Erasmus-Studierende)
	開講学部	Arts and Humanities
	担当教員名	Arnold, Antje
	時間数 (1週間あたり)	2
	授業内容	このセミナーでは、言語学および文学学習の基礎を扱う。ドイツの学生はドイツ語で何を学ぶのか? 母校でドイツ語を勉強しながら何を学ぶのか? そして、現在どのような研究が議論されているのか(何が注目されている)? 現在の絵本、過去のゲーテ、ロマン派の詩など、文学の本と一緒に読んでから、ゲーテ博物館と絵本博物館の見学をする。ドイツ語の授業はどうあるべきか、あるいはどうあるべきかを一緒に考える。
	試験・課題等	口頭試験、課外実習のレポート
	感想・自己評価等	留学生向けのドイツ語による授業で、話す機会が多くあった。課外授業ではゲーテの博物館を訪れたが、ゲーテが文学だけではなく錯覚などの科学的にも造詣が深かったことに驚いた。また、第二次大戦後のドイツの歴史博物館も訪問した。ゼロ・アワーのドイツの現代的発展を表すものが多く展示されており、軍服から再利用した鞆やコートなどとても興味深かった。口頭試験では、博物館訪問で自身の興味を持ったことについて話すという内容で、私はナチス政権でのユダヤ迫害について話したがあまり上手くできなかった。

4	コース名/科目名	Köln im Frühmittelalter: Die Entstehung einer heiligen Stadt
	開講学部	Arts and Humanities
	担当教員名	Ubl, Karl
	時間数 (1週間あたり)	2
	授業内容	「聖なるケルン」という名は中世初期に登場した。カール大帝の時代以来、この都市は聖都市のランキングにおいて特別な地位を占めてきた。人々はローマやエルサレムに次ぐ順位を望んでいたのである。ライン川沿いの都市は人々の移住により大幅な人口を失っただけでなく、キリスト教徒の生活が損なわれることも受け入れなければならなかったことから、これは注目に値する。5世紀の危機の後、聖人神話はゼロから作り直された。この前例のないサクセスストーリーの条件は何だったのか？講義では、多数の教会がどのようにしてこの街に新しい顔を与えたのか、ケルンの聖人崇拜の伝説がどのようにして生まれたのか、そして司教がどのようにして徐々に街を支配するようになったのかについて説明する。しかし、カロリング朝時代に起こったのは「聖なるケルン」の形成だけではなかった。この都市は当時、初めての急速な経済的および人口動態の好転も経験した。
	試験・課題等	レポート試験
	感想・自己評価等	ドイツ語による学部生向けの講義型の授業で、すべてを理解するには難しかったが、ライン川流域の都市として発展するケルンの都市形成からの歴史を学んだ。ケルン内のあちこちに残る遺跡についてや、ケルンに司教が何代もとどまり続けたりと宗教的に重要な都市として捉えられていたことが分かった。最終レポート試験は残念ながら悪い結果となった。

5	コース名/科目名	Theorie und Praxis: Die japanische traditionelle Musik aus der Perspektive der Bi-Musikalität
	開講学部	Arts and Humanities
	担当教員名	Shimizu, Yoshiro
	時間数 (1週間あたり)	2
	授業内容	このコースは理論、音楽実践、演奏の3つの部分で構成されている。8世紀から18世紀までの日本の伝統音楽の概要から始まる。歴史の概要では、都節や雅楽など、日本の音楽のさまざまな音階について学ぶ。参加者は雅楽の楽器（竈笛、箏、笙）を選び、日本の伝統的な音符で練習することで、ヨーロッパの音楽理論とは異なる日本の音楽を自らの体験を通して知ることができる。このコースは、二重音楽性理論の実験として行われる。三弦楽器の三味線、琴の琴、日本舞踊などのワークショップを開催する。これらのワークショップはコースと同じ場所、同じ時間に開催されます。楽譜は伝統的な文字で書かれているが、事前の日本語の知識は必要ない。
	試験・課題等	特に無し
	感想・自己評価等	日本の音楽、とくに雅楽について歴史を学び実際に演奏をした。日本についてであったため歴史などでも内容の理解はしやすかったが、雅楽がどのように日本に入ってきたかや神楽の意味といった今まで知らなかった分野で興味深かった。歌や楽器の演奏などの実践も多くあり、私は箏で演奏したが音を出すのも難易度が高かった。

●留学前半の感想について

留学先国・留学先大学・プログラム・授業・滞在先・私生活・授業以外の活動（課外活動・ボランティア・サークル等）等について、自由に書いてください。

留学先国の特徴や雰囲気等
とくにケルンに言えることだが、どこにでもラクガキがあったり、ホームレスがいたりと衛生面や治安があまり良くないと感じた。しかしケルンの人々は優しい人が多く、留学当初にスーツケース2個の大荷物を抱えていると大丈夫かと声をかけてくれる人が何人もいた。国際色豊かで留学生以外にもさまざまな国の人がいる。
留学先大学の特徴や雰囲気等
京都産業大学と比較すると規模がかなり大きい。キャンパスの敷地が広く市内のあちこちに大学の建物があるので、初回授業の時はほぼ確実に迷子になる。所属している学生もとても多く、ヨーロッパ以外の国を含めて多くの国からの留学生がいる。とても自由な雰囲気。
授業について
学部生対象のドイツ語の授業はほとんど理解できず、聴いているだけになってしまうのが悔しい。講義型の授業でも質問が多くされていて意欲の高さがうかがえた。おそらく聴講生としてご高齢の人々が授業に多くいることも驚いた。また、セミナー型の授業ではたいてい課外授業があり、いろいろな博物館などに行くことができた。
課外活動（ボランティア、サークル等）について
日本伝統音楽の授業にて、日本人教授から勧誘されて雅楽のサークルに所属している。日本でも弾いたことが無かったため、ドイツでまさか箏や琵琶の演奏をすることに驚いている。サークルメンバーのドイツ人らとの交流できたり、教会で演奏したりと経験の幅が広がりとてもありがたい。また、ESNという団体によって留学生向けのイベントが多く開催されているので、留学当の知り合いが全然いない時に参加して、留学仲間を増やすことができた。
滞在先（寮や一人暮らし等）の環境について
私の滞在先はアパートタイプのため、他の住人とのかわりはほぼ無い。自由に使えて快適ではあるが、元から積極的に人と関わるのが苦手な質なので人と話す機会が減ってしまい、コミュニケーション能力や語学力向上のためにはあまり良くないのではないかと少し悩んでしまう。
現地での生活
最初に必要なものをそろえる際に購入できる場所が分からず困ったので参考にしてもらえたらと思う。ドラッグストア→dm,ROSSMANN、食器や布団など生活雑貨→woolworth。1ヶ月ほどで生活自体は馴れた。4月でもとても暗く寒いと思った一方で、6月ごろは一気に日が長くなり気温も夏のように暑かったりと、季節の変化が早いので体調を崩さないように気を付けた。今のところ大きなけがや事件に巻き込まれることが無かったため、病院にも通わずに済んでいる。
留学先大学を目指す学生に向けてのアドバイス
私は日本でゲーテA2を取得してから留学をしたが、やはりドイツ語の授業はほとんどわからないままで、なんとか資料を見つつ進めている。ドイツは英語を話せる人が多いけれど、英語留学の人でもドイツ語が分かる方がもちろん生活面で役に立つので、ドイツ語の勉強はぜひ頑張ろう。季節ごとのイベントはもちろんのこと、ESN主催の留学生向けイベントが毎週数多くあるので、アクティブな人は絶対楽しめると思う。
留学前半の反省・留学後半に向けての意気込み・目標
とっさに言葉にできなくてそのまま口をつぐんでしまい、聴いているばかりという場面が授業でもプライベートでも多かった。また授業内容が理解できず、途中で履修を辞めてしまった授業もあった。失敗を恐れなくてもっと自分からドイツ語を話す機会を増やしていきたい。冬学期はB1のDaFに入ったので、滞在中にゲーテのb1できればb2を取得を目標とする。